

テレビ自身による震災報道の検証 —何が語られ、何が語られなかったか—

柴田 秀一*

目次

- はじめに
- 番組の選定及び検索方法
- 番組個々の分析
- 番組比較
- 自己検証について
- 全体分析 語られたこと 語られなかったこと 時系列で。
- まとめ

○はじめに

2023（令和5）年は、関東大震災から100年に当たる。関東大震災が起きた1923年のその日9月1日は防災の日として、放送に携わる者たちは、特別番組や特集を組み、被害を最小限に食い止めるため、忘れない努力をしてきたつもりだった。70年以上「大震災」と名がつくものは関東大震災のみであった。

だが、その後、1995年1月17日阪神・淡路大震災（平成7年兵庫県南部地震）、そして、2011年3月11日東日本大震災（平成23年東北地方太平洋沖地震）、また、熊本地震（2016年4月14日～）、大阪北部地震（2018年6月18日）北海道胆振地震（胆振地方中東部地震2018年9月6日）、と近年、地震活動は活発化していて、逆に慣れが出てきてしまっている節さえある。

折しも、岸田総理大臣は、2022（令和4年）8月24日の発言で、原子力発電所再稼働の数を増やし、新たな原子力発電炉の開発・建設に舵を切ろうとし、東日本大震災後の原子力発電に対する方針を変えようとしている。

映像アーカイブプロジェクトでは、放送された東日本大震災関連のテレビ番組の映像を分析することで様々な知見を得ている。

この研究は、よりの確な避難情報をもたらされていれば、震災犠牲者はもっと助かった可能性があるとの考えのもとに、テレビ局が自ら、放送していた震災情報、報道を振り返り、出した情報が間違っていた場合や、不十分な場合、間違っ⁽¹⁾て受け取られた可能性がある場合などは、その理由や、情報入手経路を調べ、再び同じようなことが起きないように考え、対応策を取る番組（自己検証番組）を調べた。そこで、何が語られ、何が語られなかったかを分析することで、今後の震災、防災報道の在り方の一助となれば幸いである。

*しばた しゅういち 日本大学法学部新聞学科 教授

なお、活字媒体の報道のされ方についての先行研究については述べず、テレビ番組の表現内容に絞って述べることにすることをお許しいただきたい。

○番組の選定及び検索方法

○テレビ放送自体が、自らの番組の伝え方や情報を批評していること。○視聴者や被災した人に意見を聞いたりアンケートを取ったりしていること。○関係者一人の独白ではないこと（必ず自分以外の第三者の意見が入っていることを）を条件として番組を選んだ。

データの使用方法

東日本大震災が起きた2011年3月から2021年3月の約10年間、JCC 株式会社（テレビ放送情報のデータベース化の会社）のメタデータから当プロジェクトで抽出した番組別データシートから、「NHK スペシャル（NHK）」58本、「クローズアップ現代（NHK）」161本、「NNN ドキュメント（日本テレビ）」115本、「テレメンタリー（テレビ朝日）」129本、「報道の魂・ザ・フォーカス等（TBS）」58本、それに加えて「ザ・ノンフィクション（フジテレビ）」は Web 上で確認できる放送バックナンバー140本（2019/4月～2021/4月）と TBS レビュー（2011/3～2021/4月）、を調べ、番組内容の記録データから、放送内容の検証を行っている（視聴者や、当事者に聞いているのみの番組も含む）番組内容説明文を一つ一つ確認して、抽出した。更に Web 上で「東日本大震災・テレビ報道・検証」でヒットするものを選んだ（報道ステーション・2021/3/11特番）。

尚、週刊フジテレビ批評/日テレアップ Date/ウオッチ!7（テレビ東京）の各局のレビュー番組は Web 上で確認できるバックナンバーと内容表記がある場合に調査対象とした。

その結果下記の8つの番組が抽出できた。

表1. 抽出8番組

テレビ自己検証番組				
数	局	放送日時	番組名	内容
1	テレビ朝日	2011/4/29金 13:20～17:54	ANN 報道特番	つながろうニッポンテレビが伝えた事伝いたいこと
2	テレビ朝日	2011/6/7火 3:10～3:40	テレメンタリー	3/11を忘れない津波を撮ったカメラマン
3	NHK	2012/3/22木 22:00～23:15	NHK スペシャル	災害報道が被災者の命を守れるか検証
4	TBS	2013/4/8月 1:40～4:10	報道の魂 記者たちの眼差し	震災報道で問われたメディアの在り方
5	テレビ朝日	2016/3/8火 2:21～2:51	テレメンタリー	その時 TV は逃げた。室内避難区域 SOS は報道機関に届いたが TV は逃げた。
6	テレビ朝日	2016/6/5日 4:30～5:00	テレメンタリー	3/11を忘れない津波を撮ったカメラマン見つめ続ける故郷の復興

7	テレビ朝日	2021/3/11木 21:54~23:25	報道ステーション	テレビにできたことはなかったか、震災とテレビ10年の検証
8	TBS	2021/3/28日 5:40~6:00	TBS レビュー	「東日本大震災から10年プロジェクト繋ぐ・繋がるスペシャル (NHK 民放共同で行った)」3.11から10年をどう伝えたか

○番組個々の分析

放送日順と、番組名が同じものは、まとめて表記した。

表2.

「ANN 特別番組 テレビが伝えたこと 伝えたかったこと」		
日付時間	登場人物	内容
2011/4/29 13:20~14:20	「テレビ朝日」 スタジオ 渡辺宜嗣・市川寛子 吉岡忍 宮島茂樹 テレビ朝日及び 系列放送局局員 15人 被災した人達 50人以上	オープニング 何が出来て何が出来なかったか7212本のビデオから「大震災とテレビのありかた」について考える。 <u>震災50日</u> 震災発生当時の各局の状況。 津波の押し寄せる映像 <u>テレビの限界</u> 岩手 IAT 本社停電、宮城 KHB 電話つながらず ヘリコプター…仙台空港は津波被害 情報カメラ……海岸の情報カメラ半数近く動かず。 カメラマン……撮影しているのか救助は。 <u>福島第一原発事故</u> ……「みんな事実を隠そうとしていると」視聴者に疑問を抱かせた。 空港から外国人が脱出…報道すると混乱を招くと判断。
14:20~15:20		福島の住民は見通しを話してほしい・こうなったから爆発したと説明して。 東京で基準を上回る放射性物質…テレビ報道に違和感大丈夫です、安心してください報道に変わった。 スタジオ・吉岡 忍 事実を伝える…逃げるかどうかは視聴者が決めること。 テレビができたことできなかったこと 物資が届かない。あっても他の避難所に分配できない。 放送していない所では、物資が届かない。 テレビが抱えるジレンマ 人探し・無事である等安否情報を聞きたい、知らせたい HP に被災者の安否情報の動画を載せた。 TV の情報は役に立ったか 69.5%が不満、30.5%が満足 どこからの情報 ①新聞②テレビラジオ③掲示板 「石巻の海底の様子」 「被災地の人が伝えたいこと」 「息子を探す被災者漁師に密着取材」

15:20~16:20		<p>「被災地の人が伝えたいこと」</p> <p>岩手・田老「サイレン鳴って逃げた」、 岩手・山田町「行方不明の息子探し」、 岩手・大槌町「行方不明父を探す歌手」、 岩手・大船渡「南リアス線復旧を目指す」、 岩手・陸前高田「電気、水道なし自宅で生きる」、 宮城・山元町「支援物資中古品は受け取られない」、 「横浜から物資を被災地に運ぶ」</p> <p>岩手・陸前高田「ようやく仕切りが出来た避難所」、 宮城・気仙沼「高台で被災を免れたホテル」、 岩手・南三陸「車30台流された自動車販売店」、 宮城・女川町出島「全島避難の島」、 宮城・塩竈町「津波浸水の寿司店」、 仙台市内「ブルーシートタウン」 「内陸にも仮設住宅を」 「排水路を復旧すべく」</p>
16:20~17:20		<p>「被災地の人が伝えたいこと」</p> <p>仙台市亘理町「寺住職皆さん生き抜いて」、 宮城山元町「津波被害小学校付近小と合同授業」、 宮城名取市「心療内科医の診察を追う」、 「心のケアの問題」</p> <p>「関東で被災した人が伝えたいこと」</p> <p>茨城・大洗町：基準値を超えた放射性物質検出で休漁、 千葉・浦安市：地震の液状化で傾く住宅、</p> <p>「福島で被災した人が伝えたいこと」</p> <p>地震、津波、原発、風評被害 の四重苦 地元の詩人、南相馬、磐梯町、浪江町、飯館村</p>
17:20~17:54	「被災地の人が伝えたいこと」は名前が入った人だけで50人以上登場	<p>「福島で被災した人が伝えたいこと」</p> <p>いわき市 貝漁師・水族館飼育員・看板店、 南相馬から埼玉へ避難した大家族 「原発の安全神話と原発問題のスタジオトーク」 エンディング サンフランシスコの小学校からの被災地へ絵手紙の紹介</p>

2011/4/29午後放送したこの番組「テレビが伝えたこと 伝えたかったこと」は、最も早く自らの放送を検証して見せた番組。4時間34分の特別番組で、7千本以上の膨大なビデオテープの記録から震災の時に何が起き、テレビは何が出来て何が出来なかったのか、振り返った。震災50日目で、まだ、ガレキを焼却している場所があるなど、混乱と津波の深い爪痕が残る状況も表している。

- テレビの限界として 電話がつながらず打ち合わせが出来ない。仙台空港津波でヘリコプター流されて、空からの映像無し。海岸部の情報カメラ17台中半数近くが動かず。カメラマンは目の前の惨状に救助か撮影か自問した。放送局の電源喪失29分間停波。その瞬間「ピー」と警告音がなりテレビが死ぬ瞬間の様だった。
- 福島原発事故 みんな事実を隠そうとしていると視聴者に疑問を抱かせた。「外国人が空港から続々と海外に脱出する映像」⇒ 報道すると混乱を招くと判断した。(ニュース担当者) 担当者放射線量の高さ。東京でも基準を上回る放射線量 ⇒ 安心して下さいという報道に違和感。安全なら(わざわざ)言わなくても良いだろう。視聴者、被災した人は、何故「安心」にかわっ

たのか疑問を持った。

○救援物資について テレビが出来たことできなかったこと

避難所に〇〇がない。⇒ 放送すると送られてきた。だが、放送したところには来るが、足りないところに送る手立てがない。取材されているところと、されていないところの格差が生じる。

○避難所での中継で親類が元気であるのが分かった。⇒ 効果はある。知らせたい人の動画を取り HP で安否情報として公開した。

○では、テレビの情報は役に立ったか 7割近くが不満、満足は3割しかなかった。

情報を得る手段は、新聞38% テレビとラジオは同数19% 掲示板16%の順だった。

テレビは2~3分しかうつさない。キラキラしてるところしかとらない。もっと（被災した人の）要求を伝えてほしい。正直に、ありのままに出せばよいといずれも厳しい。最後おばあさんが役に立っているよ。ニュース見て。昨日は美空ひばりの歌を久しぶりに聞いたという。

○このあと2時間半近く、岩手、宮城、福島、また、関東で被害にあった茨城・大洗、千葉・浦安の被災した人たちが伝えたいことをインタビュー形式でつなぐ。テレビが日々の取材で流せなかった被災した人たちの声。

この中で、まだ、電気も水道も来ない南三陸町の小さな避難所では、発電機で電気を起こし、食事の時にようやくテレビをつけるが、どこのチャンネルも画面まで同じではないかと批判される。

まだ、震災後50日だと避難所で個々人にようやく段ボールの囲いができた。との中継中の言葉がある。

心のケアに、心療内科の医師が避難所の人に状況を聞いて回る。肉親を亡くした人、家をなくした人、喪失感の心の治療は生きていくためには重要だ。

また福島では、地震、津波、原発、風評の四つの苦しみのなか、家族が故郷をはなれて、バラバラに過ごしたりしている様子や、まだ、仮設住宅にも入れない状況がうつされる。

被災した人のインタビューは名前が分かる人だけで50人以上の「伝えたいこと」が放送された。

表3.

NHK スペシャル NHK と東日本大震災 ～より多くの命を守るために		
日付	登場人物	内容
2012/3/22 22:00～23:13	スタジオ出演 首藤奈知子 / 森本健成 NHK 局員 17人 行政の長 1人 災者 (SP) 4人	震災から1年 NHK が伝えてきた情報でもっと多くの人を救えなかったか3つの課題で検証する。 大津の危機感 原発事故 見えない危険 被災者を支える情報 について検証。(5分) 大津波について 56%が来る迄余裕がある、来ると思わなかった。 放送では、避難を促す強い口調、地震報道訓練、気象庁では、高さ区分を5段階から5m、10m、10m 超の3段階とし、規模が分からない大きな地震は巨大とし、「津波巨大」と表記して避難を促す。(22分) 原発事故 見えない危険について 情報得られずに不満に感じたのは NHK ウェブ調査2011/5月) 放射能汚染 福島29% 原発 福島25% 被災者は避難を迷った。避難もありうる情報を早期に出すべき試算資料としてしか出なかったスピーディー等を協議 ➡精度は完全ではないが、一定の科学的根拠がある場合早く伝えること、緊急事態時には具体的に伝える。(17分) 被災者を支える情報について 被災者を支える情報は出たか 取材地域の偏り ⇒ 現場に入れない 震災報道の問題点は (日本大学・東洋大学調査) 報道の少ない地域で支援、対応に影響した35% 取材地域が偏っている28% 自分の地域報道が少ない27% 放送は逆さL時で地域に必要な情報を出した。 コミュニティー FM との協力、インターネット、SNS との連携。 エンディング (27分)

先のテレビ朝日より1年近く後「NHK スペシャル NHK と東日本大震災 ～より多くの命を守るために」は震災一年後の放送記念日に放送された。

大きく問題点を「大津波」「原発事故見えない危険」「被災者を支える情報」の3つに絞り番組を展開した。

「大津波」について被災した人たちや地元の人たちは、津波が来るまで余裕があるか来ないと思っている人が、実に56%だった。(日本大学・東洋大学調査)

また、津波が何メートルというより、はっきりとした言葉でつたえてほしい「内陸まで行く」等という声もあった。これを受けてNHK では強い口調で呼びかける地震放送訓練をすることになった。

また気象庁は津波の区分を規模が分からない大きな地震を巨大とし、あとを5m・10m・10m超と3段階に分かりやすくした。

原発事故 見えない危険

NHK ウェブ調査で、情報が十分でなく不満に感じたのは、放射能汚染 福島29% 原発 福島

29%と最も多い。

この中で被災した人たちは、もっと早く「避難もありうる」ことを知らせるべきだとしてい。

爆発の恐れがあることは最初から伝えてほしいとも言っている。特にスピーディー（緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム）予想データについて、試算資料としてしか出さなかったが、そうした、まだ正式な数値管理でないものを放送することについて協議し、制度は完全でないものでも一定の科学的根拠があるものは、早く伝えることとした。

被災者を支える情報

取材する地域が偏っていることに被災した人や視聴者は不満を持っている。日大・東洋大の調査では、報道の少ない地域で支援、対応に影響した35%、自分の地域の報道が少ないと思う27%と偏りが生じていると感じている。例えば、震災直後、自治体に、被害情報が入ってこない。という事は、記者も被害状況が分からない。また、各地の記者がとった映像を送ったり放送したりが地域が孤立化してできず3日後にようやく放送するといった事があった。自治体も、報道記者も情報がなかった。また、記者は津波の水が引く2日間現場に入れなかった。被災した人たちは、取り残された、忘れられたのではないかと不安があったと話した。

当初孤立した宮城県山元町はコミュニティーFM りんごラジオ（災害ラジオ）をつくり、インターネットでも配信、災害時に、こうしたコミュニティーFMの情報をNHKと共有して伝えていく。

また、Twitterを災害時に初めて活用被災地に向けて情報発信、生活、物資、入浴情報等、フォロワーは11万になった。

表4.

テレビ朝日 テレメンタリー 2011年～2016年			
日時	題名	担当	内容
2011.6.7 火 3:10～3:40	テレメンタリー 3/11を忘れない 津波を撮った カメラマン～ 生と死を見つめた 49日間	東日本放送 千葉顕一 プロデューサー 加藤東興 制作 東日本放送	宮城県気仙沼市。駐在カメラマン20年の経験者は、撮影していて良いか通常の取材をしていて良いのだろうか。死者行方不明者1万4千人。1500人以上の火災による死者行方不明者。何を取っていいか分からない恐怖感より、使命感が強かったのか。無謀としか言いようがなく、同じことがあったら、もうしない。 自宅があるべき場所からなくなっていた。覚悟を決めて津波の撮影を続ける。がれき一つどけられない。夜気仙沼では火事が広がっている。児童5人が死亡した。 鹿折（ししおり）地区小学校卒業式、野球グラウンドでの土葬、被災者への取材、友人から家を借りて一家で住めるようになった。震災49日の法要の取材。

<p>2016.3.8 火 2:21~2:51</p>	<p>テレメンタリー その時「テレビ」 は逃げた。 ～黙殺された SOS～</p>	<p>テレビ朝日 福島放送</p> <p>ディレクター 郭 晃彰 鎌田侑樹 植村俊和</p> <p>プロデューサー 中村直樹 吉田光利</p> <p>チーフ プロデューサー 原 一郎 宮川 晶</p>	<p>5年前テレビ朝日に届いた大量のメール多くの人が取り残された町。</p> <p>原発事故では、指示があるまで取材を行わないと決めた。 (半径20キロは既に退避勧告) 20~30キロ以内には屋内待避と管内閣は指示。 南相馬の男性は自身経営の青果店のものが全て無くなった。</p> <p>南相馬に1万人の住民が残されていた。南相馬では、沿岸部取材をしていたテレビ朝日記者の震災翌日3/12のレポートが最後になった。</p> <p>テレビ朝日ニュース編集長「ついに起きた本当に」。取材者を守るために沿岸部待避、屋内待避にかかる地区は全て取材禁止とする。一般の人の待避より広い地域。</p> <p>テレビ朝日原子力取材本部記者「地面に線が引いてあるわけでないのでどこが(危険)か分からない。」茨城から宮城県取までの広い範囲は取材しない。そもそも原発事故に対するサーベイメーターがない、ポケット線量計の電池切れ、まずいったん引くというのは仕方がない。</p> <p>震災1か月間1万3千通のメールがテレビ朝日に来た。相馬市の男性、南相馬に物資をテレビの力で送ってほしい子供が7か月でもっと生かしたい。⇒子供の為群馬に移転、仕事も変えた。</p> <p>17年前に起きた1999.9.30JCO 東海村原発臨界事故。この時取材者は近づき過ぎた。女性スタッフがいたり空撮したり。この時の取材マニュアルから2000年に取材可能な空間線量を毎時10μシーベルトと定めた。</p> <p>しかし、原発から50キロ以上離れた福島放送の郡山支局でもこれを超えた。</p> <p>福島放送報道制作局長は、毎時10μシーベルトを超えた時点で、とりあえず屋内車内からの電話取材にとどめるとした。十分な取材と言えない。助けに来て下さいというメールを無視してしまった。</p> <p>南相馬に住む男性はテレビに失望し苛立ちメールを送った。「2011.3.20南相馬市民は怒っている、キャスターや指揮者はきたくないのですか。」</p> <p>インタビューでテレビや新聞からカメラと録音装置貸すから映像撮ってくれと言ってきたと聞き、何やってんだ自分で来いと。ベトナム従軍記者のように。</p> <p>テレビ朝日記者は上司に線量の基準より低い所を取材させてくれと直訴したが認められなかった。</p> <p>無断で禁止エリアに入って原発労働者の家族を取材した記者もいた。テレビ朝日社会部記者(取材禁止エリアでなくわざわざ他の場所に連れだしてインタビューした)</p> <p>屋内待避3週間して南相馬の取材を再開、物資は少しずつ入ってきたが、沿岸部は手つかず。</p> <p>福島放送記者は、わずか一日の取材で、悲しみ、涙切なさやるせなさを目の当たりにした。</p> <p>一方で伊方原発では退避訓練。テレビアサヒも取材マニュアルを改訂機器を増やし高線量でも、一時的に取材できるような態勢に。200μシーベルトでも取材をしている映像。</p>
-------------------------------------	---	--	--

<p>2016.6.5 日 4:30~5:00</p>	<p>テレメンタリー 3/11を忘れない 津波を撮った カメラマン 見つめ続ける 故郷の復興</p>	<p>東日本放送 千葉顕一 ナレーション 中村雅俊 ディレクター 藤野正義 プロデューサー 藤井尚弘 制作 鈴木泰之</p>	<p>気仙沼で津波を撮ったカメラマン（2011.6.7放送の 続編） 気仙沼で新たな場所の高台に、亡くなった娘の仏壇 を置くため住宅再建をする人。 心の再建は。両親と祖母を失った姉妹。 来ることを避けていた自宅のあった場所に来た。5 年たった今、自宅は工場の駐車場に。 涙を流し、5年たってもこうか…と。自らも被災者 である取材者。 震災後からの漁業再開や震災住宅建設や丸5年たっ た2016年震災の日の取材。 「思い出させて済みません」という。 息子から仕事を継ぎたいとの発言があった。意思の 受け継ぎ。</p>
-------------------------------------	--	---	---

テレメンタリーはテレビ朝日の報道ドキュメンタリー番組で、震災のことは度々伝えているが、レビューという内容では、3つの回が揚がった。

うち2つは、同じカメラマンを追ったもので、津波の襲来を撮るものの、このまま撮っていて良いのかの疑問から、インタビューをすることで、思い出したくないものを思い出してしまうのではないか、というためらいの中で、自らの住む家も津波に流された被災した人としてカメラを回し続け、息子がそのあとを継ぎたいと言っている。

日付的にはその間にあるその時「テレビ」は逃げた。～黙殺されたSOS～は、タイトルも衝撃的だが、福島第一原発の事故で、避難勧告区域や屋内避難区域となったところに取材に行けなくなったことで、被災した人達の状況が分からない状態になった。

テレビ朝日には、助けてくださいや、物資が欲しいとのメールが、震災1か月で1万3千通にもなった。テレビ朝日では1999年に起きた東海村原発事故の教訓として、取材可能な空間線量を毎時10μシーベルトとした。実際には頑発から50km離れた郡山でもこれを超えた。

記者たちは、取材に行くべく直訴したり、取材禁止エリアから別の場所に異動してインタビューをしたりしたが、被災した人は、何故記者が来ないとのだと怒りのメールを送った。

テレビや新聞がカメラや録音機を渡すから映像取ってくれと頼んでくるという。自分で来いと。

この時テレビ朝日は、福島県内全域と福島県に隣接する一部地域を取材禁止にしていた。

4月になってようやく南相馬に取材に入った。後に震災から10年特番でこのことは更に検証される。

表5.

TBS・JNN 報道の魂 2013/4/8月 1:40~4:10AM 放送 震災報道で問われたメディアの在り方			
episode4	2955	IBC 鹿野真源	<p>合同追悼式 岩手大槌町。自分の言葉と現実の乖離の焦り。 不条理に失われた命について、分かったらいい、話を聞く、伝えたい と思ひ言葉を探す。ありきたりな言葉が上滑りをする。仮設住宅の女性 が「(震災を) 忘れられてきているようだ (まだ起きて2年だが)」 忘れる⇒震災に合わなかった人は「あの日を忘れない」で良いが、震災 にあった人はあの日は忘れたほうが良い、忘れなければ思い出せない。 深い悲しみ、心の傷、 被災者に寄り添うとはどういうことか。答えはないが、であった人とな にかと共有したい。テレビで「あの日を忘れない」絆・希望・前を向い て生きよう。 使い古した言葉は現実の重みを失う。 被災者の言葉を伝えることが、現実を変えていくと信じている。</p>
episode8	10635 1時間6分 35秒	RCC 吉住啓一	<p>「いいわけ」 こんな大変なことが起きててもテレビはそこで苦しんでいる人に役立つ情 報探さないんだとびっくりした。それでもテレビの情報を信じたいと 思っている。福島で酪農3年で震災と原発事故にあう。国は混乱が起き ないように安全だという。情報をださなかった。マスメディアは批判な しにそれを踏襲した。本当の被害をどこまであなたたちは伝えているん ですか。何を伝えなきゃいけないか、何を伝えたいのか。伝えること で何をしたいのか。自分たちの報道がどうなんですか。 (記者クラブにいる人) それって、報道ではなくて機関ですよ。それ は、ジャーナリストではないですよ。 自主規制の心理が働いている。原発問題は、触れない方が身のためだ。 これまでかかった費用を東電に請求しようと記録している。 報道には希望が持てますか「かわらないと思う」 報道は力もあるし、責任のある事だから、そこに携わる人は痛い思いを しても、できるギリギリのところまで、これはおかしいと言う責任があ ると思う。 自分たちも出来るギリギリまで一人一人が声をあげていかないと、その 方が怖い社会になってしまう。</p>
episode10	12455	RKB 今林隆史	<p>仙台市の津波取材～福島市避難者の被ばく検査。 テレビは、本当の線量を伝えていないと。10~20少なくいつている。浪 江町の被災者が言う。テレビは大本営発表を繰り返していたのではない か。浪江町民の取材。 福島大学渡辺明 教授 放射性物質の拡散を予測する国が開発した「ス ピーディー」が使われたかった何故情報が不確かだったと、文科省、原 子力保安院、首相補佐官が声をそろえていう。 静岡大学小山真人教授 全て公開して、裏を取りながら出す。 テレビがもっと踏み込んでいれば、ああいう状態にはならなかった。す べての情報を伝えるのが記者ではない。一方で東日本大震災では多様な 情報を伝える必要があった。相反するテーマ。</p>

「報道の魂」はTBSのドキュメンタリー番組で。その中で放送された「記者たちの眼差し」は東日本大震災の取材をした記者の独自の視点で見た被災地や被災した人たちへのメッセージ、あるいは思いがつつられている。

今回、16本の作品のうち、レビュー要素のある、Episode4、8、10の3本を抽出した。

Episode4

夫を子供を無くし仮設住宅に暮らす女性に話を聞く。「2回めの津波で手を離してしまった。心残りだ」という空虚な使い古した言葉の問題と、被災した人に寄り添う報道とはなにかと問うている。分きたいと思ひ、話を聞く、伝えたいと思ひ言葉を探す。 忘れる⇒震災に合わなかった人は「あの日を忘れない」で良いが、震災にあった人はあの日は忘れたほうが良いと僧侶の法話、忘れなければ思い出せない。という。

episode8 「いいわけ」

これは、原発報道の仕方に疑問を持っている夫婦が厳しい意見を取材者にぶつけるもの。

「テレビは人に役立つ情報探さないんだとびっくりした」「国は混乱が起きないように安全だという。マスメディアは批判なしにそれを踏襲した。本当の被害をどこまであなたたちは伝えているんですか。」

「報道は力もあるし、責任のある事だから、そこに携わる人は痛い思いをしても、できるギリギリのところまで、これはおかしいと言う責任があると思う。」これにおいそれと簡単に答えられる記者はほとんどいないだろう。

Episode10

テレビは原発事故で、大本営発表を繰り返していたのではないかと福島大学 渡辺明教授はいう。放射性物質の拡散を予測する国が開発した「スピーディー」が使われたが、何故か情報が不確かだったと、文科省、原子力保安院、首相補佐官が声をそろえて言っていると。

静岡大学小山真人教授は全て公開して、裏を取りながら出す。「テレビがもっと踏み込んでいれば、ああいう状態にはならなかった。NHKと同じようにスピーディーの使用について、もっと積極的になるべきだったと指摘した。

表6.

報道ステーション 震災10年特番「テレビにできた事できなかった事」		
日付	登場人物	内容
2021/3/11 21:54~ 23:25	スタジオ 森川夕貴 / 小木逸平 徳永有美 / 梶原みずほ 気仙沼中継 富川悠太 テレビ朝日 / ネット局 5人 行政の長 3人 被災者 (SP 入り) 6人	17分半から「TV は何が出来て、何が出来なかったか検証 (コーナー50分)」 ○失われた「空からの目」仙台空港に津波ヘリ損壊 民放5局協力で必ずヘリ1機は別置き機体が失われた場合、映像の共有化 ○報道が生んだ格差 避難所によって必要物資の不均衡、本当に必要なものと必要な所に行くための報道の仕方 ○命を救うための報道への改善 緊急放送訓練→想定外だったがそれを想定内にする努力。 ○福島第一原発事故 限られた機関の出す情報をそのまま放送 放射性物質 東京の雨水からも「すぐに健康に影響はない」との表現。 ○「メディアは逃げた」原発報道 福島原発半径20km 避難指示、半径30km 屋内避難指示だったが、テレビ朝日では3/14~凡そ1週間福島県内全域と宮城・茨城の福島に接する一部地域を取材禁止に。 ⇒線量計や防護服等十分なし 苦渋の選択 ○福島県相馬市 立谷秀清市長 生中継 報道のありかた ○解説者のメディアの在り方のまとめ 報道はグッドネイバー / ウォッチドッグとして ○定点観測映像見つけ続ける10年 変化する被災地

震災とテレビ 未来への検証として、震災があった年の4月29日に ANN 特別番組として「テレビが伝えたこと、伝えたかったこと」を4時間34分で放送したが、その10年後の報道ステーション特番。

震災の年の特番から被災地の人が伝えたかった事に変え、「命を救うための報道への改善」、「メディアは逃げた」が加わった。

○大津波警報よりも 地震被害を優先

映像に津波が見えていながら (岩手宮古) 避難コメントなし (地震34分後) その地域でない津波到達時刻を表示。

新幹線の運行状況を伝えていた・くりかえし避難の呼びかけをしなかった。

○失われた「空からの目」

仙台空港に津波 ヘリ損壊翌日朝によくヘリ映像⇒ 対策 民放5局協力で必ずヘリ1機は別置き機体が失われた場合、映像の共有化

○報道が生んだ格差 避難所によって必要物資の不均衡

避難所物資格差 安否・困りごとの伝言板的役割

大量の物資が大中規模の避難所へ。小規模には来ず。配送手段もなし。



本当に必要なものと必要な所に行くための報道の仕方

○命を救うための報道への改善

緊急放送訓練 → 津波への注意喚起と沖合の機器での早く正確な津波予測
想定外としていたが それを想定内にする努力。

○福島第一原発事故

限られた機関の出す情報をそのまま放送 放射性物質 東京の雨水からも「すぐに健康に影響はない」

(官房長官会見2011/3/22放送)

情報収集先 官邸・原子力保安院・東京電力

専門用語が飛び交う中で事態の評価が出来ず不十分な情報をそのまま流しメディア不信を生んだ。

○「メディアは逃げた」原発報道

福島原発半径20km 避難指示、半径30km 屋内避難指示だったが、テレビ朝日では3/14～凡そ1週間福島県内全域と宮城・茨城の福島に接する一部地域を取材禁止に。

線量計等機器が足りない線量計や防護服等十分なし 苦渋の選択

メディアは逃げた テレビの取材が来ない 避難するかしらないか悩む

福島相馬市長 生中継 立谷秀清 (たちや・ひできよ) 市長

TVは足りないブルーシートを届けてくれる力になった。

・今後自治体の体制とテレビの報道のやり方は考えてほしい。

・原発問題は、冷静に。不安をあおるだけでは問題。 自治体の実態を踏まえてほしい。

メディアの在り方のまとめ 解説 朝日新聞記者 梶原みずほ氏

グッドネイバー Good Neighbor 良き隣人 (地域・コミュニティーへの貢献)

ウォッチドッグ Watchidog 番犬 (=権力監視)

定点観測映像見つめ続ける10年 テレビに出来ること 復興を見つめ続ける

- ・ 岩手・大槌、宮城・石巻、宮城・気仙沼、
- ・ 宮城・石巻・大川小、宮城・南三陸町、
- ・ 福島・浪江町、福島・相馬市、岩手・大槌町、
- ・ 岩手山田町リアス線、
- ・ 岩手陸前高田・高田松原で松の苗が育っている ところで終わる (6分間)

表7.

TBS レビュー 震災10年プロジェクトのレビュー		
日付	登場人物	
2021/3/28日 5:40~6:00	司会：豊田綾乃 TBS レビュー 震災10年プロジェクト 3.11から10年をどう伝えたか／隈元信一元朝日新聞論 説委員・ジャーナリスト、 震災10年プロジェクト 山岡陽輔	「東日本大震災から10年プロジェクト繋ぐ・繋がるスペシャル（NHK 民放共同で行った）」 （隈元）10年前の「しまった」という点があって10年目は、力を入れてやったのではないか。 （山岡）記憶・教訓を繋ぐ。記憶が薄れていることを感じて、自分事としてとらえてもらうよう作った。 傍観者でなく当事者意識をもって取材をするようになった。 TBS・N スタススペシャル 各局定点観測映像で表す。 10年 NHK・民放5局取材者をスタジオに集め討論。報道が過疎の所、メディアスクラムのところ。 （隈元）取材分担が出来ないか。本来のスクラムを組んで出来ないか。 将来的にはその方向になると良い。 視聴者から「まだ、震災のショックから立ち治っていない人もいると思うので、津波の映像はあまり流さないでほしい」⇒山岡「生々しい音声の使用を注意した。津波の映像もむやみに映像を使わない。忘れないでほしいという部分もあるので、試行錯誤していく。時間がたてばたつほど薄れていくことに何らかの方法で抗っていく。」 （隈元）忘れてはいけない・忘れたい被災者のアンビバレントな両面の思いを意識しながらやっていかなくてはいけない。 テレビだからできること⇒隈元・息の長い取材報道をする事、アーカイヴ映像でも効果的に使う。キー局の役割は地方局が困ったときに、繋いで行くヘルプキーの役割がある。

TBS のレビュー番組で、JNN で放送した東日本大震災10年特番を考えた。今回 NHK 民放の共同プロジェクトとして、映像の共同化も行った。今後はその方向でやるべきとのジャーナリスト隈元信一氏の意見だった。

津波の映像については、また、ショックから立ち直れていない人もいるのでプロデューサーはむやみに音や映像を使わない、抑制的なものにした。

ここで、重要なのは、隈元さんの言葉で「忘れてはいけない、忘れたいという被災者のアンビバレントな両面の思いを意識しながらやっていかなくてはいけない。それとテレビだからできることは、息の長い取材報道をする事」という点である。

○番組比較

自己検証番組で、震災報道全般を検証しているものは震災から2年以内と10年後に放送されている。年月の変化によって、検証の内容に変化があるか比較をした。

表8. NHK2012年とテレビ朝日2021年との比較

	NHK	テレビ朝日
時 間	1時間12分	1時間27分（検証部分正味50分）
放送日時	2012/3/22（21時～22時12分）1時間12分	2021/3/11（22時～23時27分）検証部分正味50分
登場人物	NHK 局員 17人 行政の長 1人 被災者（SP 入り） 4人	テレビ朝日・ネット局員 5人 行政の長 3人 被災者（SP 入り） 6人
内 容	大津波の危機感 原発事故見えない危険 被災者を支える情報	大津波より被害を優先 失われた空からの目 メディアは逃げた 報道が生んだ格差

（番組を視聴し筆者が作成）

NHK 番組から9年の月日があつてのテレビ朝日の自己検証で、検証部分で比べると、テレビ朝日の方が、20分少ない。NHK では大きく3つに課題を絞ったが、テレビ朝日は大きく4つで、取り上げた課題はほぼ同じ。テレビ朝日では、NHK と違い、仙台空港にあったヘリコプターが津波で流され使用不能であつたので、その対策を施した。また、福島原発については、NHK では、当時まだ試算資料であつたスピーディー（緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム）を「精度は完全ではないが、一定の科学的根拠がある場合早く伝えること」と踏み込んだ。

テレビ朝日では、「メディアは逃げた」とサブタイトルをつけ、1999年の東海原発臨界事故後の基準を守る取材だったため、取材自粛区域が福島全県のみならず、宮城、茨城の一部にも及んだことを指摘、更に、取材自粛区域の住民に、別の取材可能な場所に移動してもらいインタビューし、そのあと帰ってもらうというようにした記者が、その住民に「あなた達が、取材できない場所とされている所に、私達をまた返すのか」と言われたことを語った。取材者としてこの言葉をどう受け取るか。そこに住む住民に対して私たちは取材に行きませんとどう合理的に説明できるのか。突きつけられたものは大きい。やはり、こうした時の対策を考えられる専門知識を持った記者の育成も、地震訓練での錬成と同時に必要であるが、番組では、放射線測定器等の配備は触れたものの、語られなかった。

表9. テレビ朝日の番組同士の比較

	テレビ朝日2011年	テレビ朝日2021年
放送日時	2011/4/29 14時20分～17時50分（全体4時間半）	2021/3/11 22時～23時27分（検証正味50分）
登場人物	テレビ朝日局員・ネット局員 15人 病院責任者 1人 被災した人（SP入り） 52人	テレビ朝日局員・ネット局員 5人 行政の長 3人 被災した人（SP入り） 6人
内 容	IAT 本社停電、KHB 電話つながらず ヘリコプター 仙台空港は津波被害 海岸の情報カメラ半数近く動かず。 放送していない所では、物資が届かない。 福島第一原発事故事実を隠そうとしていると HPに被災者の安否情報の動画を載せた。 被災地の人々が伝えたいこと サンフランシスコの小学校からの被災地へ絵手紙の紹介	大津波警報よりも地震被害を優先 失われた「空からの目」 報道が生んだ格差 命を救うための報道への改善 福島第一原発事故「メディアは逃げた」 福島相馬市長生中継 メディアの在り方のまとめ

(番組を視聴し筆者が作成)

テレビ朝日では、震災の起きた年の4月29日に「テレビが伝えたことと伝えなかったこと」として、日々のニュースではなかなかまとめられなかった内容を、いち早く自己検証の形で4時間半という長時間特別番組で祝日に伝えた。

他方、10年目の震災の日に「報道ステーション特番」として、放送時間は短くはなったが、特に福島原発事故について「メディアは逃げた」と、震災直後の特別番組より深く、自戒を込めた切り口で詳しく取材自粛地域の状況と記者たちのジレンマを述べている。

また、2011年の特別番組では、震災当初の放送局の動きが詳しく述べられたことと、局の電源が落ちてしまうとテレビは無力であること。電源の入らないところではテレビは見られないこと。当たり前なことだが、それを思い知らされる。また、津波が来ている時に、画面にその様子が映りながら、東京では違うことを伝えていて、岩手の系列局「岩手朝日テレビ」のアナウンサーが「テレ朝！ 津波が来てる！」と怒鳴るシーンは、キー局と地元局との被災状況の温度差が表れるところである。

更に、この時期はようやく避難所に物資が届くようになってきたことと、テレビで取り上げられた避難所には物資が届き、そうでないところは、孤立しているように、避難所での格差が広がっていた。このことは、震災直後の方がより実感が感じられる。この後、モニュメント的な「震災名所」を含む地域は取材されるが、そのほかの地域、特にインフラ等で容易に入れない地域は取材も入らず孤立していき。

加えて、2011年震災直後の特別番組では、番組の半分以上（2時間40分）をかけて「被災した人が伝えなかったこと」として、岩手、宮城、福島のいわゆる「被災3県」のみでなく、茨城、千葉の被災した人迄幅広くインタビューをした。これは、日々のニュースで伝えきれていなかった被災した人々の話を聞くことが、当初、個々人の話を丹念に聞けなかったことの罪滅ぼしのようにも感じたが、単純に人々の話を聞くことでそれぞれ、感じていることが違い、おかれた環境によって「被災者」とひとくくりに言えないという事が分かる。ましてや、津波の被害と、原子力発電所事故の被害の違いは、歴然としている。

表10. テレビ朝日2011年とNHK2012年の番組比較

	テレビ朝日2011年（全体4時間半）	NHK
放送日時	2011/4/29 13時20分～17時50分（4時間24分）	2012/3/22 21時～22時12分（1時間12分）
登場人物	テレビ朝日局員・ネット局員 15人 病院責任者 1人 被災した人（SP入り） 52人	NHK局員 17人 行政の長 1人 被災者（SP入り） 4人
内 容	IAT 本社停電、KHB 電話つながらず ヘリコプター 仙台空港は津波被害 海岸の情報カメラ半数近く動かず。 放送していない所では、物資が届かない。 福島第一原発事故事実を隠そうとしている。 HPに被災者の安否情報の動画を載せた。 被災地の人が伝えたいことインタビュー。 サンフランシスコの小学校からの被災地へ絵手紙の紹介	大津波の危機感 原発事故見えない危険 被災者を支える情報

（番組を視聴し筆者が作成）

テレビ朝日は、放送時間4時間半の大特番で、震災が起きて50日目に放送。対して、NHKは1年後の放送記念日に放送し1時間12分と長さが大きく違った。テレビ朝日も、NHKも自局員を同じくらいの数で出演させて実際の震災や取材が発生当時どうであったかの様子を語った。また、NHKは行政の長（宮城県山元町長）、テレビ朝日は病院事務長（南浜中央病院）が出演した。テレビ朝日で特徴的だったのは、番組の半分2時間半以上の時間を割いていわゆる被災3県（岩手・宮城・福島）のみでなく茨城。千葉の被災した人たちが伝えなかったという声を拾った。

しかし、国政に携わる議員は全く出てこず、国政に携わる政治家はどうしている、何の策もないのか、原子力発電は国策ではなかったか、という疑問を抱かせる。NHKにも国政政治家は出てこない。

時間が短いNHK番組で、被災した人たちの声は、震災1年後で、ある程度冷静に自分の行動が語れるようになったからか「大津波」ですぐ逃げようと思わなかったところや、福島原発事故で「避難」に迷う当時の人々の話を放送した。NHKは、前にも述べた、スピーディーなどのまだ、定着していない新しい分析情報も、今後は一定の科学的な根拠がある場合は積極的に伝えていく事に踏み込んで決めたことを放送している。

又、NHKでは、SNSや、災害FM等新しい協力方法を模索し、より多くの情報をより多くの被災した人たちに伝えることを考えた事を伝えた。

テレビ朝日は、福島原発事故で「テレビは逃げた」と10年目特番では検証し反省するが、この時点ではまだ、震災の混乱状態が続いている為か、「直ちに健康には影響はない」の不自然さ、「専門用語の飛び交う記者会見」「本当の事を伝えているのか、被災した人たちや視聴者の疑問」「現場で安全を確保して取材をする」等の指摘をするにとどまっている。

また、この時点でテレビ朝日では、一人の心療内科医を追い、こうした災害には、心の医療治療が必要であることを指摘し、もっと多くの手が望まれていると指摘する。また、テレビ朝日の特徴は、カメラマンが「撮っていていいのか」「撮る間があるなら救助が優先だろう」と自問自答しながら津波の映像を撮影、自らも自宅が流され被災した者として、苦しみながら取材を続ける様子が語られ、後の「テレメンタリー」というドキュメンタリー番組で2回取り上げられることになる。

○自己検証について

「検証とは、しっかり調べて事実を確認すること、および、その確認のために行う作業のことである。一般的には、真偽が疑われる状態の事柄の真偽を確定させるための調査、あるいは、仮説が正しいことを証明するために行われる計算や考察など指す。」(実用日本語表現辞典)

筆者は、TBS テレビ時代の1996年、TBS ビデオ問題の検証番組である「証言」～坂本弁護士テープ問題から6年半～を担当した。テレビが行う自己検証は、誤りがあった時、何故そういう事態が起きたのかを明らかにすること、更に、同じ誤りを二度と起こさないために対策を施すことが求められる。勿論、私たちには捜査権があるわけではないので、十分に調査検証が行われるかと言えば、限界もある。

また、こうした検証のきっかけは、多くは名誉棄損や刑事事件の発生、訴訟等で番組に問題が生じた折に行われるもので、問題番組がなくなり、関係者の処分が終わり、訴訟等が一定の結論に達すると、沈静化とともに、だんだんと忘れられていく。

しかし、例えば「ビデオ問題」は、取材ビデオを、本来は放送でのみ見せるべきものを、インタビューされた人と対立する相手に、強く要求されて見せてしまうという、ジャーナリズムの根幹倫理にかかわる問題を持つ。

また、他の例でよく指摘される「捏造」や「やらせ」といった事があった場合も、同じ根幹倫理の問題を持っているので、新たに仕事について人材には、二度と無いよう、必ず伝えなくてはいけない内容だ。だが、その伝承自体が十分できているか、大いなる疑問がある。

そのため、大きな事件、事故、災害があった際には、必ず、放送の際、情報伝達の方法が適切であったか、誤解やミスリードを生む内容でなかったか、それぞれの放送局が持つレビュー番組で、自己検証することが必要である。

ところが、いずれも、レビュー番組は30分前後ボリュームで、番組表の放送時間も視聴者がよく見る時間帯ではない。こうしたレビュー番組での検証は、今回調べられた限りでは十分と言えるものではなかった(「TBS レビュー」で放送されたのみ)のは、残念な限りで、レビュー番組の特別番組や枠大で、ゴールデン、プライム・タイムでの放送があっても全くおかしくなかった。

○全体分析 語られたこと 語られなかったこと 時系列で。

○発生から津波襲来

語られた 津波からの避難を促す工夫はある。

家庭電源なく TV 見えない、インターネットでの工夫 Twitter 利用 (NHK)

語られない テレビ局の電源が落ちた問題は解決していない⇒自家発電以外にバックアップは。

○津波後から避難状態

- 語られた さまざまな情報の提示は掲示板的な工夫で、また安否情報はHPで動画を公開した。
 取り上げられない地域があるのは語られたが、→対策までは語られていない。
 全ての地域の取材は難しい
 避難所によって必要なものが違うところまでは語られた。→自治体との協力は？
 明確な提示はなかった。
- 語られなかった 被災した人の「助けてください」に答えられなかったことの改革案。
 自治体・自衛隊との情報共有の方法を探れないか。
- 語られなかったが、 例えば、放送時間の関係で流せなかった取材先の記録は、各局ニュースサイトに工夫して出来るだけ多くの地域を出していき、時間はかかるが、理想的にはすべての地域がまんべんなく人の目に触れていくようにできないか。

○原発事故発生前後から避難

- 語られた 線量計など記者が持つ機器の充実
- 語られていない 災害対応ドローンの映像、自衛隊の撮影映像等の協力活用。
- 語られなかった 原発事故の会見に対応できる、最低限の知識を持つ記者の育成。
 地震訓練はしているが、原子力発電について放射線の影響を含めた、基本的知識を有する記者を育成するを地震訓練と同等に。
- 今後、新型コロナ禍でのリモート取材や、ドローン等の活用で、災害で孤立化した人達と結ぶ工夫ができるのではないか。2011年よりはるかに、スマートフォンやSNSでの映像電話機能等の活用が出来る。

○避難生活から復興、継続報道

- 語られた 忘れない、思い出したくないについて「記者たちの眼差し」の中で思い出したくないことがあるというのは、指摘しているが、それをもって、取材しない理由にはならない。取材しなくては、後世にまた同じことを繰り返す可能性がある。
- 語られなかった 周年報道、3月ジャーナリズムと呼ばれることについて
 筆者は、周年報道、〇月報道がなくなってしまうたら、完全に忘却の彼方になってしまう事を恐れる。周年や〇月報道があることによって取材が保たれ放送される効用があると考える。

○まとめ

筆者はTBSでアナウンサーとして36年ほど勤め、地震特番をしている常々無力感を感じていた。「海岸部や港、川の河口付近は津波が来て危険なので近寄らないでください」と伝えても必ずと

言っている程、情報カメラには海を見に来る人影が映っていた。NHKが東日本大震災以来、津波警報が出ると「東日本大震災を思い出してください」「直ちに逃げて」といった表現を使うことを考えたのは、避難を促す一つの工夫だった。今はほとんど使われていないが、TBS時代の地震速報では、1980年代から阪神淡路大震災までは、「揺れは長くて1分です」といい、1分過ぎたら落ち着くといていた。これは関東大震災の揺れが約1分で弱くなったためである。

だが、阪神大震災では長周期振動で高層ビルがゆっくり長く揺れるたこともありこの文言はなくなった。

また、関東大震災は昼前に起こり、火を使っていて火事が起きたこともあり、「火の始末をしてください」という文言もあったが、阪神大震災の時に冬で揺れる中、火を消しにいて、熱湯を浴びたり、けがをする人がでて、「揺れが小さくなってから、火を消してください」になり、阪神淡路では最初の強い揺れで、倒れてきたもので圧死する人が多数出たので、重い家具を固定するようになった。

その後の地震が、東日本最震災で、阪神淡路大震災ではほとんどなかった津波の被害と、長周期振動で揺れが長く続き、広い範囲で強い揺れと頻繁な余震が起きた。また、津波の高さは10メートル15メートルと経験のない高さを目の当たりにした。ここから「海岸や河口部からより遠くではなく、より高いところへ。より頑丈な建物に早く避難してください」という文言が入っている。

今回の8番組の震災特番では、放送検証の為、被災した人たちのインタビュー、自治体の長、自社の記者・カメラマン・指揮をとる幹部社員等が出演し、当時の状況、問題点を語る形式がとられている。この研究の中間発表の時、プロジェクトのチームメンバーから「どの番組にも国会議員が出ていない。」疑問が呈された。

災害の対応は各自治体の長が責任者であることはわかるが、こと原発に関しては、国の政策にかかわるものではないか。また、海などの防潮堤は、自治体だけの予算で出来るものではないではないか。何故、国会議員がこのことを話さないのだろう。こうした検証で国会議員の不在は何故か。改めて国会議員は何のために地方から選ばれるのだろうと考えざるを得ない。

また、「直ちに人体や健康に影響を及ぼす数値ではない」と繰り返された。視聴者や被災した人たちは原発事故後に「直ちに人体や…」の言い回しを聞いて違和感をもったと答えている。国は情報を隠している。知っていて隠して、そう言っているのではないかと私自身も疑った。

「官邸にて勤めて初めて分かったこと」(2013年)を書いた下村健一(当時、内閣広報審議官)によると、「本当のことを伝えて」パニックになるのを恐れているのではなく、「間違った情報を伝えて」パニックになることを恐れた。それで「直ちに…」の表現になったという。(同著)

また、当時の政府は事実を隠していたのではないというシーンが「官邸に勤めて…」に出てくる。

3月12日の福島原発第一号機の水素爆発が官邸に知らされたとき、それまできっぱりと「爆発はおきません」と断言していた国の原子力安全委員長は、その場で両手で頭を抱え暫く動けなかった。(同著)事実を隠していたのではなく、事実に関する情報も入っていない、事故の実態を把握できていなかった。

専門家とはいったい何なのだろうか。

今後の原発で事故等問題が起きた時、線量計や防護服等の物資面での備えは分かりやすく揃えやすいのかもしれないが、何より必要なのは、専門家とやりとりできる記者を育てることではないか。今のOJT (=On the Job Training) は限界があるのでではないか。ヒトは都合の悪いことは隠そうとするし「聞かれなかったから答えなかった」という言い訳はよく聞く。原子力発電所の構造や事故の起こり方などベースは最低分かっている、記者教育をするべきではないかこれは地震訓練と一緒に、施設見学も含めて、日本が原発開発に舵を切ろうとしている時必要なことである。

分かりやすいようで、よく考えるとどんな報道なのか、にわかに説明できない「寄り添う報道」という言葉があるが、「マスコミュニケーション」が、被災した人それぞれに「寄り添う」ということは可能だろうか。

寄り添う報道について、答えはないが共有したい(報道の魂 Episode4)と述べていた。「テレビが伝えたこと、伝えなかったこと」(テレビ朝日特番2012年)の中で、スタジオで吉岡忍氏が「個別ニーズにマスがどう対応するか、(無茶かもしれないが)思い切ってやらないといけない。」と指摘している。更に別のシーンで同氏は「一つ一つの具体的問題を解決の為、家が壊れたら法律・保険の専門家に聞き、解決の突破口を示す。⇒痒いところに手が届くのではなく、被災した人は「弱い人、かわいそうな人」と見ないことだというのが、ヒントになる。

また同番組で名取市の心療内科医が、「外から来た人は、被災した人に共感するが、それを越える同感が必要」というのも寄り添うことになるのではないか。

テレビの流す情報は、手元に形として残らない。ビデオやDVDとして残したものは、いざという時にその場で再生して見ている訳にはいかない。ここまで津波が来たというモニュメントや、海拔○mの標識のように、地震や津波のその時に役立つには、しつこく繰り返して何度も放送するという、テレビの特徴を使うことで、補う事ができるかもしれない。

電源が落ちたらどうする ⇒自家発電の強化はあるが、地震の影響を受けない「クラウド」に情報を上げる。その際、特別に震災の時に見るサイトや新たなサイトではなくいつものサイトで見られるように工夫をする。

その際動画にこだわらず文字情報のチェンジや更新で伝えることも必要と考える。

コミュニティーFMは確かに役に立つが、災害が起きたから作られるのが災害FMで、災害が起きてから新しい周波数が割り当てられて、この数字で聞いて下さいと広告をする。従来からある放送と比べて、圧倒的に不利だ。普段見聞きしているサイトやチャンネルを出来るだけ維持していく工夫が必要だ。

震災初期、「がれき」という言葉は使わないでほしいと言われた。元はみんなの大事なものだった、家にしても、アルバムにしても、ランドセルや、絵や着物や。それが水をかぶり、所有者がい

なくなると「がれき」なのかと。同じように簡単に使ってしまうが逆に空虚に響く言葉が、「あの日を忘れない」「絆」「希望」「前を向いて生きよう」(TBS 報道の魂 episode4)、「復興」「頑張ろう○○」空虚に響かず言葉として使うためにはどうしたらいいか。答えがない。

さて、いま「オンデマンド」ばやりの世の中で、見たい時、知りたい時に動画を見るのが常識で、決まった時間に放送するテレビは敬遠される。だが震災があったその時が、「オンデマンド」として最も見たい、知りたい瞬間である事をもう一度テレビは認識する必要がある。

謝辞

本論文は、公益財団法人放送文化基金の助成(2021年度)を受けた「映像アーカイブを用いた震災関連報道10年の時系列分析」の研究成果である。

注

(1) GX 戦略会議後の岸田総理発言 https://www.kantei.go.jp/jp/101_kishida/actions/202208/24gx.html

参考文献

- ニュースを破壊するものは何か? フェイクニュース、ポスト真実、そしてワイドショー文化について
山腰修三 調査報道デジタル2022年8月8日02:35 <https://tbs-mri.com/n/n732d0b60fece>
- 「最後の声 ドキュメント災害関連死」 山川徹 角川書店 2022年2月
- 「逢える日まで 3.11遺族・行方不明者家族10年の思い」 河北新報社編集局 金菱清 2022年2月
- 世論調査に見る震災10年の人々の意識・私たちは東日本大震災から何を学んだのか
「放送研究と調査」MHK 放送文化研究所 2021年7月号
- 「原発震災のテレビアーカイブ」 小林直毅編著 法政大学出版社 2018年3月
- 「戦後日本メディアと原子力問題 原発報道の政治社会学」 山腰修三編著 ミネルヴァ書房 2017年3月
- 「福島第一原発事故 原子力災害報道の諸問題
—被災県の放送局におけるニュース生産過程のエスノグラフィーとアンケート調査より」
桶田敦 (TBS テレビ/早稲田大学) 社会情報学 第3巻3号 2015
- 「首相官邸で働いて初めて分かったこと」 下村健一 朝日新書 2013年3月
- 東日本大震災時の災害情報の伝達と住民の行動
—陸前高田市・南三陸町・仙台市・名取市・山元町住民調査をもとにして
東日本大震災における津波避難 —聞き取り調査から避難成否の要因を探る—
災害情報調査研究レポート Disaster-Information Management Vol.16 2012
中村功 (東洋大学) 中森広道 (日本大学) 福田充 (日本大学)
- オムニバスドキュメンタリー 3.11大震災記者たちの眼差し JNN TBS サービス 2012年3月
- 「原発報道とメディア」 武田徹 講談社現代新書 2011年6月
- 「検証 東日本大震災 その時ソーシャルメディアは何を伝えたか」
立入勝義 ディスカバー携書 2011年6月